

朝鮮民主主義人民共和国の核実験に抗議する声明

朝鮮民主主義人民共和国は1月6日、4度目となる核実験を実施したと発表した。

この行為は、国際社会で高まる核廃絶の声に真っ向から対立するものであり、核兵器及び既存の核計画の放棄を求めた国際連合安全保障理事会の決議を踏みにじるものである。

我が国は世界で唯一の被爆国であり、核兵器の廃絶を基本とした世界の恒久平和の実現は市民の願いである。小平市議会においては、昭和58年に全ての国の核兵器に反対し、非核三原則を堅持し、人類永遠の平和のため努力することを決意して非核都市宣言をした。また、戦後60年に当たる平成17年には非核平和都市宣言を議決し、核兵器廃絶と世界平和の実現に取り組んでいる。

このような願いに反し、朝鮮民主主義人民共和国により繰り返される核実験の強行は、世界の核廃絶の気運の高まりに逆行する無謀な暴挙であり、断じて容認することはできず、強く非難する。

よって小平市議会は、今回の核実験に強く抗議するとともに、今後、日本国政府においては、国際社会が一致した対応をとるために主導的な役割を果たすよう強く求めるものである。

平成28年1月8日

小平市議会議長 宮 寺 賢 一